

当館所蔵漢籍の「宋版」及び「元版」の解題④

土屋 裕 史

はじめに

本稿は、前稿（第45号所収）に続き、国立公文書館（内閣文庫）が所蔵する漢籍のうち、中国の南宋時代（一一二七～一二七九）に刊行された「宋版」と元時代に刊行された「元版」（一二七九～一三六七）について、各書籍の概略・来歴・刊行年代等を一般の利用者にも分かり易く解説することを目的としたものである。紙幅の都合により省略した引用文献・凡例等については、前稿を参照されたい。

78 通志 二〇〇卷（卷五八・五九・九三欠）

一一八冊（宋）鄭樵撰

毛利高標旧蔵〔請求番号二八五―〇〇八〇〕

『通志』は、『史記』や『漢書』など、上古より唐までの正史を基にして、帝紀一八卷、皇后列伝二卷、年譜四卷、略五一卷、列伝一二五卷を通史的に記載した歴史書である。氏族・都邑・器服など二〇門の「略」があるのが、本書の特徴といえる。

鄭樵（一一〇四～一一六二）は、字は漁仲、莆田（福建省莆田県）出身の人。夾漈山に住んでいたことから、号を夾漈山人といい、学者は夾漈先

生と称した。博覧強記で、蔵書家のもとを訪れたならば、必ず全ての蔵書を読み終えるまで帰らなかったという。紹興年間（一一三一～一一六二）に官職に就き、累進して枢密院編集官となった。著に『爾雅注』・『夾漈遺稿』がある。

【伝来】

「北海孫／氏万春／樓圖書」の印が、每冊首（ままた欠）、冊中（第九・一四・一五・一六・一八・一九・二三・二四・一〇八・一一〇・一一三冊のみ）にあり。

孫承沢の蔵書印。孫承沢（二五九二～一六七六）は、明末清初の人。字は耳北、号は北海、退谷といい、明の崇禎四年（一六三一）の進士。清の時代に吏部左侍郎となる。その後、政治から身を引いて著作に専念した。書籍及び書画の収集家として有名で、その書齋には書籍だけで数万卷あったという。

「佐伯侯毛利／高標字培松／蔵書画之印」の大型印が、第一冊首にあり。

豊後佐伯藩主・毛利高標の蔵書印（第45号、60『隋書』を参照）。

「昌平坂／学問所」（墨）の印が、每表紙、每冊尾にあり。年代印なし。「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首、每冊尾にあり。

【刊行年代】

「序文」に、元「至治二年」（一三三二）とあるも、それよりも時代を遡る補刊記「至大二年」（一三〇九）が版心上部にあり。また明「成化一〇年」（一四七四）・「万曆一七年」（一五八九）の補刊記あり。

●元至治二刊（福州三山郡学・明万曆修）：当館目録、七八頁。

●元槧本：『経籍訪古志』、五五頁。

●元至治二年福州三山郡学刊本：「関東現存宋元版書目」、二四二頁。

●元至治二年福州三山郡学刊：「宋元版所在目録」、八二頁。

●至大二年（一三〇九）三山郡学刊 元至治二年福州郡学・明（成化一〇年・万曆一七年等）通修：「日本現在宋元版解題 史部（上）」、二六九頁。

79 通志 二〇〇卷（卷一〜六清補写）

一二四冊（宋）鄭樵撰

紅葉山文庫旧蔵〔請求番号史〇三六—〇〇一〕

『通志』及び鄭樵については、前掲78『通志』を参照。

本書の卷一から卷六・上までは清時代の補写、卷六・下（六冊目）以下が刊本である。

【伝来】

「閩中蔣／氏三経／蔵書」の印が、第一冊首にあり。

「蔣絢臣曾／経秘蔵」の印が、第一冊首（目録首）にあり。

「蔣琦／之印」（白文）の印が、冊首（全冊の三分の一ほど）にあり。

「絢臣／父」（白文）の印が、冊首（全冊の半分ほど）にあり。

「蔣氏珍／蔵書／籍私記」の印があり。

「秘閣／図書／之章」（甲）の印が、毎冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、毎冊首、毎冊尾にあり。

【刊行年代】

前掲78『通志』よりも時代がかなり下った版本で、元「至大二年」（一三〇九）・明「成化一〇年」（一四七四）・「万曆一七年」（一五八九）

に加え、「万曆一〇年」（一五八二）・「万曆一四年」（一五八六）・「万曆一五年」（一五八七）・「万曆一六年」（一五八八）・「万曆一八年」（一五九〇）・

「万曆二二年」（一五九四）・「万曆二三年」（一五九五）・「万曆二四年」（一五九六）・「万曆四五年」（一六一七）・「万曆四六年」（一六一八）・「万曆四七年」（一六二九）・「崇禎元年」（一六二八）の補刊記あり。

●元至治二刊（明崇禎修）：当館目録、七八頁。

●明万曆十七年刊本：『経籍訪古志』、五五頁。

●元至治二年福州三山郡学刊 明修：「宋元版所在目録」、八二頁。

●元至治二年福州三山郡学刊 元至治二年福州郡学 至明崇禎元年通修：「日本現在宋元版解題 史部（上）」、二七三頁。

●至大二年（一三〇九）三山郡学刊 元至治二年福州郡学 至明崇禎元年通修：「日本現在宋元版解題 史部（上）」、二七三頁。

●至大二年（一三〇九）三山郡学刊 元至治二年福州郡学 至明崇禎元年通修：「日本現在宋元版解題 史部（上）」、二七三頁。

80 漢雋 一〇卷

五冊（宋）林鉞編

市橋長昭旧蔵〔請求番号別〇五二—〇〇七〕

『漢雋』は、漢王朝の歴史を記述した正史である『漢書』（第44号、36

とを附し、項目ごとに分類して五〇篇にまとめた字書。

林鉞は、字は伯仁、龍泉（浙江省龍泉市）出身の人。紹興二年（一一五二）

の進士（『浙江通志』「林越」の条による）。

【伝来】

「仁正侯長昭／黄雪書屋鑒／蔵図書之印」の大型印が、第一冊首にあり。
仁正寺藩主・市橋長昭の蔵書印（第44号、31『明本正誤足註広韻』を参照）。

「昌平坂／学問所」（朱）の印が、每表紙、每冊首（第一冊を除く）、每冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首にあり。

「■■■」（白文）の不明印が、第一冊首にあり。

※第五冊尾に市橋長昭の献書跋あり。

【刊行年代】

第一冊首に「延祐七年」（一二三二〇）、「紹興三二年」（一一六二、林鍼自序）、「淳熙一〇年」（一一八三）の「序文」あり。

●元刊：当館目録、八六頁。

●元覆宋刊本：「関東現存宋元版書目」、二四三頁。

●元刊 覆宋：「宋元版所在目録」、九〇頁。

●〔元〕刊：「日本現在宋元版解題史部（下）」、三〇頁。

81 五朝名臣言行録 前集一〇巻 後集一四巻（巻一〇～一四欠） 続集八巻 別集二六巻 外録一七巻

一二冊 前集 後集（宋） 朱熹撰

続集 別集 外録（宋） 李幼武撰

市橋長昭旧蔵〔請求番号別〇五一―〇〇〇一〕

『五朝名臣言行録』は、北宋時代の名臣の事蹟を収録した「前集」・「後集」、南宋時代の名臣の事蹟を収録した「続集」・「別集」、「道学」といわれる、北宋の周敦頤から始まり朱熹によって大成される学派に属する学者の事蹟を収録した「外集」から構成されている。

朱熹については、20『四書集註』（第43号所収）を参照。
李幼武は、字は士英、廬陵（江西省吉安県）出身の人。上記以外は未詳。

【伝来】

「仁正侯長昭／黄雪書屋鑒／蔵図書之印」の大型印が、第一冊首にあり。

「梅熟軒」の印が、第一・四・六・一一冊首にあり。

京都・相国寺の塔頭「梅熟軒」の蔵書印。

「慈照院」の印が、第一・三・四・六・一一冊首にあり。

京都・相国寺の塔頭「慈照院」の蔵書印。

「浅草文庫」の印が、每冊首（第一〇冊を除く）にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首、每冊尾にあり。

※第一冊表紙に市橋長昭の手識あり。

※第二冊尾に市橋長昭の献書跋あり。

【刊行年代】

「前集」に「宝祐六年」（一二五八）、「外集」に「景定二年」（一二六一）の「序文」あり。

●元刊（外集巻一二～一七補写）：当館目録、九四頁。

●元刊本（外録十二至十七鈔補）：「関東現存宋元版書目」、二四三頁。

●元刊 欠後集巻一〇以下 外録一二・一七鈔補：「宋元版所在目録」、八七頁。

●〔元〕刊（外録巻一二～一七補写）：「日本現在宋元版解題史部（上）」、二八五頁。

82 国朝名臣事略 一五卷

二冊 (元) 蘇天爵撰

市橋長昭旧蔵〔請求番号別〇五〇一〇〇〇五〕

『国朝名臣事略』は、元の時代に活躍した名臣四七人の事蹟を、碑文などに基づいてまとめたものである。

蘇天爵(一二九四―一三五二)は、字は伯修、真定(河北省正定県)出身の人。国子監(貴族の子弟や天下の秀才を教育した学校)の学生から官職に就く。江浙行省参政の時、反乱を鎮圧するために出陣したが、その軍中で没した。

【伝来】

「仁正侯長昭／黄雪書屋鑒／蔵図書之印」の大型印が、第一冊首にあり。

「昌平坂／学問所」(朱)の印が、每表紙、每冊首、每冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首にあり。

※第二冊尾に市橋長昭の献書跋あり。

【刊行年代】

「目錄」末尾に「元統乙亥余志安刊于勤有書堂」の刊記あり。「元統乙亥」は「元統三年」(一三三五)にあたる。

●元統三刊(余氏勤有書堂)：当館目錄、九五頁。

●元統三年余志安勤有書堂刊本：「関東現存宋元版書目」、二四三頁。

●元統三年余志安勤有書堂刊：「宋元版所在目錄」、八八頁。

●元統三年(一三三五)建安余志安勤有書堂刊：「日本現在宋元版解題史部(上)」、二八六頁。

83 廬山記 五卷

五冊 (宋) 陳舜俞撰

毛利高標旧蔵〔請求番号重〇〇二一〇〇〇一〕

『廬山記』は、景勝地として有名な中国・廬山の観光案内書。「廬山」は、現在の江西省九江市の南に位置し、近年、ユネスコの世界遺産(文化遺産)にも指定されている。著者の陳舜俞は、退官後に廬山を訪れ、見聞した名所や名士の事蹟、碑文、詩文などについて詳述した。巻頭に廬山の名所旧跡を記した地図一葉を附す。

陳舜俞は、字は令舉、号は白牛居士、烏程(浙江省湖州市)出身の人。

慶曆六年(一〇四六)の進士。王安石が推し進めた青苗法に反対したため左遷され、その後まもなく没した。

【伝来】

「佐伯侯毛利／高標字培松／蔵書画之印」の大型印が、第一冊首にあり。

「秘閣／図書／之章」(甲)の印が、每冊首にあり。

※昭和三〇年、重要文化財に指定。

【刊行年代】

卷三(第三冊、8葉才)に欽宗(在位一二二五―一二二七)の諱である「桓」字を敬避して「犯／淵聖御諱」とする。「淵聖」は欽宗の称号。

●宋〔紹興〕刊：当館目錄、一二七頁。

●南紹熙刊：「宋元版所在目錄」、九三頁。

●〔南宋前期〕刊：「日本現在宋元版解題史部(下)」、四八頁。

84 新編詔誥章表事文擬題 五卷 新編詔誥章表事实 四卷

二冊 (元) 郭明如編 劉瑾増広

毛利高標旧蔵〔請求番号別〇五二一〇〇〇一〕

『新編詔誥章表事文擬題』及び『新編詔誥章表事实』は、「詔(みこと)のり」・「誥(辞令)」・「章(奏上文)」・「表(君主や役所に提出する書類)」といった、官吏として必要不可欠な文章を学ぶための模擬問題集及び文例集。

郭明如については未詳。

劉瑾は、字は公瑾、安福(江西省安福県)出身の人。元王朝には仕えず、隠居して学問と著述に専念した。著作に『詩伝通釈』などがある。

【伝来】

「佐伯侯毛利／高標字培松／蔵書画之印」の大型印が、第一冊首にあり。

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、每表紙、每冊尾(第一冊を除く)にあり。年代印なし。

「書籍／館印」の印が、每冊首にあり。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首にあり。

【刊行年代】

第一冊首に「至正四年」(一三四四)の「序文」あり。

●元至正刊：当館目録、一五六頁。

●元至正刊本：「関東現存宋元版書目」、二五三頁。

●元至正刊：「宋元版所在目録」、一三九頁。

85 史略 六卷

二冊 (宋) 高似孫撰

木村兼葭堂旧蔵〔請求番号重〇〇二一〇〇〇四〕

『史略』は、『史記』などの正史から雑史にいたる歴史書及び注釈書を集録した目録。書物の概要のほか、該当の書物に対する著名人の発言なども収録する。中国では早くに散逸しており、本書が唯一の伝本である。

高似孫(一一五四?～一二二二)は、字は統古、余姚(浙江省余姚市)出身の人。淳熙十一年(一一八四)の進士で、処州の長官となった。

【伝来】

「梅熟軒」の印が、第一冊首、第二冊中(巻四首)にあり。

「慈照院」の印が、第一冊首、第二冊中(巻四首)にあり。

「兼葭堂／蔵書印」の印が、每冊首にあり。

「木氏／永保」の印が、每冊首にあり。

上記二印は、木村兼葭堂の蔵書印(第44号、27『鉅宋広韻』を参照)。

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、每表紙、每冊尾にあり。

「文化甲子」の印が、每冊尾にあり。

※「文化甲子」は、文化元年(二八〇四)にあたる。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首にあり。

「内閣／文庫」の印が、每冊首、每冊尾にあり。

※昭和三十一年、重要文化財に指定。

【刊行年代】

●宋〔宝慶〕刊：当館目録、一六〇頁。

●宋槧本：『経籍訪古志』、六一頁。

●南宋刊本：「関東現存宋元版書目」、二四五頁。

●宋刊：「宋元版所在目録」、九七頁。

●宋宝慶元年（一二二五）序刊：「日本現在宋元版解題史部（下）」、七五頁。

86 子略 三卷 首一卷

一冊（宋）高似孫撰

木村兼葭堂旧蔵〔請求番号重〇〇二一〇〇〇五〕

『子略』は、先秦諸子から漢代までの「諸子」（儒学・道家など様々な学派）の著作を集録した目録。中国では早くに散逸し、本書が唯一の伝本である。巻四を欠く。体裁等は、前掲85『史略』と同じ。

高似孫については、前掲85『史略』を参照。

【伝来】

「梅熟軒」の印が、冊首にあり。

「慈照院」の印が、冊首にあり。

「兼葭堂／蔵書印」の印が、冊首にあり。

「木氏／永保」の印が、冊首にあり。

「昌平坂／学問所」（墨）の印が、表紙、冊尾にあり。

「文化甲子」の印が、冊尾にあり。

※「文化甲子」は、文化元年（二八〇四）にあたる。

「浅草文庫」の印が、冊首にあり。

「内閣／文庫」の印が、冊首、冊尾にあり。

※昭和三二年、重要文化財に指定。

【刊行年代】

●宋〔宝慶〕刊：当館目録、一六一頁。

●南宋刊本：「関東現存宋元版書目」、二四五頁。

●宋刊：「宋元版所在目録」、九七頁。

●〔南宋後期〕刊：「日本現在宋元版解題史部（下）」、七五頁。

87 纂図互註 荀子 二〇卷

五冊（周）荀況撰（唐）楊倞注

昌平坂学問所旧蔵〔請求番号別〇六三一〇〇〇七〕

『纂図互註 荀子』は、戦国時代の学者である荀況の言説をまとめたもので、唐時代の楊倞（事蹟など未詳）が注釈を加えたもの。「纂図互註」とは、文字だけでは理解しづらい建物・衣冠・器物などの図を加え（纂図）、本文と同一の文言や文意が他の篇や書物のどこにあるかを注記（互註）した形式のことで、受験勉強用のテキストとして大量に出版された。

【伝来】

「昌平坂／学問所」（墨）の印が、每表紙、每冊尾にあり。

「寛政戊午」の印が、每冊尾にあり。

※「寛政戊午」は、寛政一〇年（一七九八）にあたる。

「大学校／図書／之印」の印が、每冊首にあり。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首、每冊尾にあり。

「内閣／文庫」の印が、每冊首、每冊中、每冊尾にあり。

「李躋敬仲」の印が、第三冊中、第五冊尾にあり。

「敬／仲」の印が、第三冊中、第五冊尾にあり。

「■／軒」(鼎)の不明印が、第三冊中にあり。

【刊行年代】

●元末刊(明修)：当館目録、一六三頁。

●元刊明修本：「関東現存宋元版書目」、二四五頁。

●元刊(覆宋末元初建刊本)：「宋元版所在目録」、一〇〇頁。

88 新刊黎居士簡易方論 存一卷(卷二)

一冊(宋)黎民寿撰

医学館旧蔵(請求番号別〇六三―〇〇〇三)

『新刊黎居士簡易方論』は、薬剤の処方について述べた医学書。李時珍

『本草綱目』にも引用されている。

黎民寿については未詳。

【伝来】

「多紀氏／蔵書印」の印が、冊首にあり。

「多紀氏」の蔵書印。代々医学を生業とする家柄で、歴代の当主は

幕府の医官に任ぜられた。この印は、多紀元簡以後の歴代が用いた。

「医学／図書」の印が、冊首にあり。

「躋寿殿／書籍記」の印が、冊首にあり。

上記二印は「医学館」の蔵書印。多紀氏の創設した医学塾「躋寿館」が幕府の所管となり、「医学館」と改称された後に用いた。

「日本／政府／図書」の印が、冊首にあり。

「内閣／文庫」の印が、冊首、冊中、冊尾にあり。

「■／室／秘笈記」の不明印が、冊首にあり。

【刊行年代】

●元刊：当館目録、一九五頁。

89 幼幼新書 存一卷(卷三八)

一冊(宋)劉昉撰

医学館旧蔵(請求番号別〇六三―〇〇〇八)

『幼幼新書』は、小児科専門の医学書で、宋時代以前の小児科に関する

著作などを整理・編集している。

劉昉は、字は方明、潮陽(広東省潮陽区)出身の人。直龍(湖南省長沙市)の知事となった。

【伝来】

「多紀氏／蔵書印」の印が、冊首にあり。

「江戸医学／蔵書之記」の印が、冊首にあり。

「医学館」の蔵書印。寛政以後安政年間まで用いられた。

「日本／政府／図書」の印が、冊首にあり。

「頤／神」の印が、冊首、冊尾にあり。

荻野元凱の蔵書印。荻野元凱(一七三七―一八〇六)は、字は子元、号は台州、江戸中期の医家。

【刊行年代】

●宋刊：当館目録、二一〇頁。

●宋槧本：『経籍訪古志』、一六七頁。

●宋刊本：「関東現存宋元版書目」、二四九頁。

●宋刊：「宋元版所在目録」、一一七頁。

90 玄玄棊經集 二卷 首一卷

一冊 (宋) 晏天章撰 (元) 虞集編

市橋長昭旧蔵〔請求番号子〇六六—〇〇〇一〕

『玄玄棊經集』は、囲碁の解説書。奥深い囲碁の理論及び棋譜などを載せる。「玄玄」は「深遠なさま」をいう。

晏天章は、宋時代の人。上記以外は未詳。

虞集(一二七二—一三四八)は、字は伯生、号は道園、邵庵、諡は文

清、崇仁(江西省崇仁県)出身の人。三歳で読書を始め、呉澄の門下に学ぶ。大徳年間(一二九七—一三〇七)の初めに大都路儒学教授となる。詩文に秀で、「元代四傑」と称される。

【伝来】

「仁正侯長昭／黄雪書屋鑿／蔵図書之印」の大型印が、冊首にあり。

「昌平坂／学問所」(朱)の印が、表紙、冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、冊首にあり。

※第一冊尾に市橋長昭の献書跋あり。

【刊行年代】

冊首に「至正七年」(二三三七)の「序文」あり。

●元刊：当館目録、二五五頁。

91 新編類意集解 諸子瓊林 (諸子集要) 前集二四卷 後集一六卷

五冊 (元) 蘇応竜編

昌平坂学問所旧蔵〔請求番号別〇三五—〇〇〇一〕

『新編類意集解 諸子瓊林』は、『荀子』・『莊子』・『管子』といった諸子の書物に記載された事柄を、人倫門・儒学門・道德門などに分類・整理した

もの。「前集」は一〇門、「後集」は五門を収める。

蘇応竜については未詳。

【伝来】

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、每表紙、每冊尾にあり。

「文化丙寅」の印が、每冊尾にあり。

※「文化丙寅」は、文化三年(一八〇六)にあたる。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「■／■」(鼎)の印が、第一冊首にあり。

【刊行年代】

●元末刊：当館目録、二七四頁。

●元刊本：「関東現存宋元版書目」、二五四頁。

●元刊：「宋元版所在目録」、一三九頁。

92 世説新語 八卷

四冊 (宋) 劉義慶撰 (梁) 劉孝標注 (宋) 劉辰翁評

昌平坂学問所旧蔵〔請求番号別〇六三—〇〇〇六〕

『世説新語』は、後漢から東晋までの著名人の逸話を収録したもので、

德行・言語・政治・文学・方正などの部門に分類・整理している。

劉義慶（四〇三〜四四四）は、劉宋（南朝宋）を建国した劉裕の甥で、臨川王に封ぜられる。文学を愛好し、門下には当代一流の文人が参集した。

劉孝標は梁時代の学者・劉峻（四六二〜五二二）のこと。字は孝標、諡は玄靖先生。貧しい生活を送りながらも学問に励み、珍しい書籍があれば必ず借りて読んだという。梁に仕え、『類苑』や『山栖志』を著した。

劉辰翁（一二三二〜一二九九）は、字は会孟、号は須溪先生。廬陵（江西省吉安県）出身の人。須溪は住んでいた土地の名称。景定三年（一二六二）の進士。宋が滅亡すると、僧侶となって故郷に戻り、二度と仕えることはなかった。

【伝来】

「有斐／斎蔵」の印が、毎冊首にあり。

皆川淇園の蔵書印。皆川淇園（一七三五〜一八〇七）は、江戸中期の儒学者。名は愿、字は伯恭、号は淇園、有斐斎。

「河本／儼印」の印が、第一冊首（巻一首）にあり。

河本立軒の蔵書印。河本立軒（？〜一八〇九）は、江戸時代後期の豪商。名は儼。蔵書家として知られ、その文庫「経誼堂」に三万冊以上の書籍を有していた。

「昌平坂／学問所」（墨）の印が、每表紙、毎冊尾にあり。

「文政甲申」の印が、毎冊尾にあり。

※「文政甲申」は、文政七年（一八二四）にあたる。

「書籍／館印」の印が、毎冊首にあり。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、毎冊首にあり。

【刊行年代】

●元刊：当館目録、二八一頁。

●元槧本：『経籍訪古志』、八五頁。

●元刊本：「関東現存宋元版書目」、二五四頁。

●〔元〕刊 〔元〕修：「宋元版所在目録」、一四二頁。

93 新編 古今事文類聚 前集六〇巻 後集五〇巻 続集二八巻 別集三二

巻 新集三六巻 外集一五巻 目六巻

六〇冊（宋）祝穆編（新集・外集）〔元〕富大用編
林羅山旧蔵〔請求番号別〇六一—〇〇〇一〕

『新編 古今事文類聚』は、唐の欧陽詢が編纂した『芸文類聚』を手本

にして、古今の出来事や詩文を部門ごとに分類して収録したもの。「前集」は一三部、「後集」は一四部、「統集」は一三部、「別集」は九部、「新集」は一五部、「外集」は九部に分類する。

祝穆は、字は和甫。弟とともに朱熹に学び、『方輿勝覧』を著す。富大用は、元時代の人、字は時可。上記以外は未詳。

【伝来】

「江雲渭樹」の印が、第一冊首にあり。

「昌平坂／学問所」（墨）の印が、每表紙にあり。

「文政庚寅」の印が、毎冊尾（第一・四六冊を除く）にあり。

※「文政庚寅」は、文政三年（一八三〇）にあたる。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「内閣／文庫」の印が、毎冊首、毎冊中、毎冊尾（第五七冊を除く）にあり。

【刊行年代】

「新集」第一冊目（第四五冊）の冊尾、「外集」第一冊目（第五五冊）の冊尾に「泰定丙寅廬陵／武溪書院新刊」の木記あり。「泰定丙寅」は「泰定三年」（一二三二）にあたる。

●元泰定三刊（武溪書院）：当館目録、二九二頁。

●元泰定三年廬陵武溪書院刊本：「関東現存宋元版書目」、二五二頁。

●元泰定三年廬陵武溪書院刊：「宋元版所在目録」、一三二頁。

94 山堂先生 群書考索 前集六六卷（卷一～六欠） 後集六五卷（卷二二～四五・四九～五一欠） 続集五六卷（卷八・九・二〇・三三～四九・五四～五六欠） 別集二五卷 二二冊（宋）章如愚編

昌平坂学問所旧蔵〔請求番号別〇五九―〇〇〇一〕

『山堂先生群書考索』は、儒学の經典や先秦諸子の諸書、歴史書などの記述を、部門ごとに分類・整理したもの。「前集」は六経・諸子などの一三門、「後集」は官制・学制などの七門、「続集」は経籍・諸史などの一五門、「別集」は図書・経籍などの一一門に分類する。

章如愚は、字は俊卿、金華（浙江省金華市）出身の人。慶元年間（一一九五～一二〇〇）の進士で、国子博士・貴州の知事となった。その後、官職を辞して故郷に帰り、草堂を結んで学問を講義し、山堂先生と称された。

【伝来】

「佐伯侯毛利／高標字培松／蔵書画之印」の大型印が、第一四冊（続集）

第一冊）の冊首にあり。

当館所蔵漢籍の「宋版」及び「元版」の改題④

「有斐／斎蔵」の印が、毎冊首にあり。

「昌平坂／学問所」（墨）の印が、毎冊尾にあり。年代印なし。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、毎冊首にあり。

「内閣／文庫」の印が、毎冊尾にあり。

【刊行年代】

●元（延祐七）刊（円沙書院・後修）：当館目録、二九三頁。

●元刊本：「関東現存宋元版書目」、二五二頁。

●元延祐七年円沙書院刊 後修：「宋元版所在目録」、一三三頁。

95 玉海 二〇四卷（卷一〇一～二〇四欠） 附周易鄭康成注一卷 踐阡

篇集解一卷 詩攷一卷 詩地理攷六卷 急就篇四卷 漢芸文志攷證

一〇卷 漢制攷四卷 通鑑地理通釈一四卷 通鑑答問五卷 六経天

文編二卷 周書王会一卷 小学紺珠一〇卷 姓氏急就篇二卷

五八冊（宋）王應麟編（元）王厚孫校

林（大学頭）家旧蔵〔請求番号三六六―〇〇一五〕

『玉海』は、経書・歴史書から諸家の伝記にいたるまで、膨大な数の記述を収録し、天文・律暦などの二一門、二四〇余の細目に分類・整理した類書（多くの書物の中から事項や語句を分類編集して調べやすくした書物）で、宋の時代で最も完備したものである。附録として王應麟の著作を附す。

王應麟（一二二二～一二九六）は、字は伯厚、号は深寧居士、慶元（浙

江省寧波市）出身の人。南宋時代の大学者。九歳にして六経に通じ、淳祐元年（一二二四）進士に及第する。礼部尚書まで昇進したが、職を辞して

故郷に帰り、学問に専心した。『困学紀聞』など数多くの著作がある。

王厚孫は、王応麟の孫。祖父の影響を受け、官職に関するしきたりや名家の系譜などの知識に精通し、郡の学校などの教員となった。

【伝来】

「弘文学士院」(白文)の印が、第一冊首にあり。

「林氏/蔵書」(白文・小型)の印が、毎冊首(第一・三四・三九冊を除く)にあり。

「大学校/図書/之印」の印が、毎冊首にあり。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本/政府/図書」の印が、毎冊首にあり。

【刊行年代】

第二冊首に「至元六年」(一三四〇)の「序文」あり。また、明「正徳元年」(一五〇六)・「正徳二年」(一五〇七)、「嘉靖二年」(一五五〇)・「嘉靖三年」(一五五二)・「嘉靖三二年」(一五五三)・「嘉靖三四年」(一五五五)・「嘉靖三五年」(一五五六)・「嘉靖三六年」(一五五七)の補刊記あり。

●元刊(明嘉靖修)：当館目録、二九三頁。

●元至正刊 明嘉靖修本：「関東現存宋元版書目」、二五三頁。

●元後至元慶元路儒学院刊 明修：「宋元版所在目録」、一三四頁。

96 新編纂図増類群書類要 事林広記 前集一三卷 後集一三卷 続集

一三卷(巻五く九欠) 別集一一卷(巻五欠)

八冊 (元) 陳元靚編

毛利高標旧蔵〔請求番号別〇六〇—〇〇〇一〕

『新編纂図増類群書類要 事林広記』は、天文・地理・人事など、日常生活に必要なあらゆる分野に関する事柄を分類・整理し、図版などを取り入れて分かりやすく解説した類書。

陳元靚については未詳。

【伝来】

「妙覚寺^住常日典」の印が、毎冊首(第二・三冊を除く)、毎冊中(第四・

七冊を除く)にあり。

京都・妙覚寺の日典の蔵書印。日典(一五二八—一五九二)は、戦

国・安土桃山時代の日蓮宗の僧侶。一〇歳で妙覚寺に入り、一四歳

で得度、上総(千葉)妙光寺一三世、佐渡根本寺八世、妙覚寺一八

世を歴任した。

「佐伯侯毛利/高標字培松/蔵書画之印」の大型印が、第一・八冊首にあり。

「昌平坂/学問所」(墨)の印が、每表紙・每冊尾にあり。年代印なし。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本/政府/図書」の印が、毎冊首、毎冊尾にあり。

【刊行年代】

「前集」・「後集」・「続集」・「別集」の第一冊目上部に「西園精舎」と横書きする「封面」がそれぞれあり。

●元刊(西園精舎)：当館目録、二九三頁。

●元西園精舎刊本：「関東現存宋元版書目」、二五二頁。

●元西園精舎刊 欠続巻五—九：「宋元版所在目録」、一三三頁。

97 新編増広事聯 詩苑叢珠 三〇卷

五冊 (元) 仇舜臣編 曹彦文補

毛利高標旧蔵〔請求番号別〇六三―〇〇〇一〕

『新編増広事聯 詩苑叢珠』は、漢詩に用いられた語彙を、天文門・地理門など三五の部門に分類・整理して収録したものである。

仇舜臣・曹彦文については未詳。

【伝来】

「佐伯侯毛利／高標字培松／蔵書画之印」の大型印が、第一冊首にあり。

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、毎冊首、毎冊尾(第四冊を除く)にあり。年代印なし。

「書籍／館印」の印が、毎冊首にあり。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、毎冊首にあり。

【刊行年代】

第一冊首に「大徳三年」(二二九九)の「序文」あり。

●元大徳三序刊(後印)：当館目録、三〇二頁。

●元刊明修本：「関東現存宋元版書目」、二五四頁。

●元刊 明修：「宋元版所在目録」、一三九頁。

98 詩学集成押韻淵海 二〇卷

一〇冊 (元) 嚴毅編

昌平坂学問所旧蔵〔請求番号別〇六〇―〇〇一〇〕

『詩学集成押韻淵海』は、漢詩に用いられた語彙を、その漢字の音韻に基づいて分類・整理し、典故となる詩句を併記した韻書(韻字で分類した字書)。体裁は「韻府群玉」に似るが、より簡略になっている。

嚴毅は、字は子仁、建安(福建省建甌市)出身の人。上記以外は未詳。

【伝来】

「鹿苑寺」の印が、毎冊首にあり。

京都・鹿苑寺の蔵書印。臨濟宗相国寺派の寺院「金閣寺」のこと。

「承聰／字／無聞」の印が、毎冊首にあり。

承聰無聞の蔵書印。承聰(一六九八―一七七二)は、字は無聞、鹿苑寺第六世。

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、毎表紙(第四冊を除く)、毎冊尾(第二・四・六・九冊を除く)にあり。

※「寛政戊午」は、寛政一〇年(一七九八)にあたる。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、毎冊首、毎冊尾にあり。

■／■(鳥形)の不明印が、毎冊首にあり。

「紹／佐」の印が、毎冊尾にあり。

【刊行年代】

第一〇冊の末尾に「至元庚辰菊節／梅軒蔡氏新刊」の木記あり。「至元庚辰」は「至元六年」(一三四〇)にあたる。

●元後至元六刊(蔡梅軒)：当館目録、三〇二頁。

●元後至元六年蔡梅軒刊本：「関東現存宋元版書目」、二五四頁。

●元後至元六年蔡梅軒刊：「宋元版所在目録」、一三九頁。

99 護法論 一卷 洛陽白馬寺記一卷

一冊 (宋) 張商英撰

〔請求番号別〇六四—〇〇〇四〕

『護法論』は、北宋の政治家である張商英が、儒学によって排斥されていた仏教を擁護するために著した論文。

張商英(？)一(一一二)は、字は天覺、号は無尽居士、諡は文忠、新津(四川省新津県)出身の人。官職は尚書右僕射となった。

【伝来】

「松本氏／図書印」の印が、冊首にあり。

松本月痴の蔵書印。松本月痴は、江戸時代後期の漢学者。名は幸彦、字は子邦、号は月痴。浅草蔵前で札差を営むかたわら学問を好み、

「勝鹿文庫」を作って蔵書万巻を所蔵したという。

「大日本／帝国／図書印」(乙)の印が、冊首、冊尾にあり。

「明治十三年購求」の印が、冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、冊首にあり。

「広／聊」の印が、冊首、冊尾にあり。

【刊行年代】

『護法論』の末尾に「至元元年」(一二六四)の刊語、『洛陽白馬寺記』の末尾に「龍虎余君正刊」の刊記あり。

●元至元刊(余君正) ……当館目録、三〇六頁。

●元至元中龍虎余君正刊本 ……「関東現存宋元版書目」、二五四頁。

●元至元中龍虎余君正刊 ……「宋元版所在目録」、一四四頁。

100 釈氏稽古略 四卷

八冊 (元) 釈覺岸撰

昌平坂学問所旧蔵〔請求番号別〇六四—〇〇〇九〕

『釈氏稽古略』は、釈迦から始まる仏教の法統や著名な仏教者の事蹟などを、中国の三皇五帝から南宋時代末までの歴史に織り交ぜながら、編年体で簡潔に記述したものの。

釈覺岸は、字は宝州。烏程(浙江省湖州市)の宝相寺に住した。

【伝来】

「竜眠」の印が、第一・三・五・七冊首にあり。

東福寺・竜眠庵の蔵書印。

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、每表紙、每冊尾にあり。

「文政戊寅」の印が、每冊尾にあり。

※「文政戊寅」は、文政元年(二八一八)にあたる。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首にあり。

「春■／図書」の印が、每冊首にあり。

【刊行年代】

第八冊尾に「至正一五年」(二三三五)の「跋文」あり。

●元至治刊 ……当館目録、三〇八頁。

●元至正刊本 ……「関東現存宋元版書目」、二五四頁。

●元至正刊 ……「宋元版所在目録」、一四五頁。

101 白先生雜著 指玄篇 八卷 白先生金丹図二卷

一冊 (宋) 葛長庚撰

林羅山田藏〔請求番号別〇六三―〇〇〇五〕

『白先生雜著 指玄篇』は、南宋時代の道士である葛長庚が「金丹(仙薬の製造法や服用法)」などについて述べたもの。

葛長庚(一一九四―一二二九)は、字は如晦、号は海瓊子、閩清(福建省閩清県)出身の人。紫清真人に封ぜられた。白氏の子となり玉蟾と改名する。道教の南宗五祖の一人。

【伝来】

「江雲渭樹」の印が、冊首にあり。

「林氏/蔵書」の印が、冊首にあり。

「昌平坂/学問所」(墨)の印が、表紙、冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、冊首にあり。

「日本/政府/図書」の印が、冊首にあり。

「内閣/文庫」の印が、冊首、冊中、冊尾にあり。

「彦/洞」の印が、冊首にあり。

【刊行年代】

冊首に「封面」あり。上部に「勤有堂刊」「類編」と横書きし、その下に縦書きで「瓊瑄白玉蟾/先生指玄集」と中央に大書し、その左右に「一言指破玄中趣」「草劫身■約外閑」と書する。

●元刊(勤有堂) ……当館目録、三二〇頁。

●元勤有堂刊本 ……「関東現存宋元版書目」、二五七頁。

●元勤有堂刊 ……「宋元版所在目録」、一五六頁。

102 清庵先生 中和集 前集三卷

一冊 (元) 李道純撰 蔡志頤編

林羅山田藏〔請求番号別〇六三―〇〇〇四〕

『清庵先生 中和集』は、元時代の道士である李道純が道教の奥義などをまとめたもの。上巻には「玄門宗旨」、中巻には「金丹秘訣」、下巻には「問答語録」などを収録する。「後集」は欠。

李道純は、字は元素、号は清庵、瑩蟾子、都梁(湖南省武岡市)出身の人。「長生觀」(道教の寺院)に住み、異人に教え受け、道教の奥義を体得したという。

蔡志頤は、李道純の門人。上記以外は未詳。

【伝来】

「江雲渭樹」の印が、冊首にあり。

「林氏/蔵書」の印が、冊首にあり。

「昌平坂/学問所」(墨)の印が、冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、冊首にあり。

「日本/政府/図書」の印が、冊首にあり。

【刊行年代】

「目録」末尾に「大徳丙午中元/翠峯丹房刊行」の刊記、冊尾に「大徳丙午中秋/刊于翠峯丹房」の木記あり。「大徳丙午」は「大徳一〇年」(一一三〇六)にあたる。

●元大徳一〇刊(翠峯丹房) ……当館目録、三二〇頁。

●元大徳十年翠峯丹房刊本 ……「関東現存宋元版書目」、二五七頁。

●元大徳一〇年翠峯丹房刊 存前集三冊 ……「宋元版所在目録」、一五六頁。

103 楚辞（楚辞集註） 八卷 弁証二卷 後語六卷

四冊（宋）朱熹撰

昌平坂学問所旧蔵〔請求番号別〇四三―〇〇四〕

『楚辞（楚辞集註）』八卷は、中国の南方・長江流域の「楚」地方で発達した歌謡を収録したもので、南宋の大学者である朱熹が注釈を加えている。「弁証」では旧注の誤謬に対して訂正を加え、「後語」には『楚辞』以降の歌謡を収める。

朱熹については、20『四書集註』（第43号所収）を参照。

【伝来】

「昌平坂／学問所」（墨）の印が、每表紙、第三冊中、每冊尾（第三冊を除く）にあり。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首にあり。

「東■■■■」（円形）の不明印が、每冊首（第四冊を除く）、第三冊中にあり。

また、同文の墨印が、第一冊中（巻一、一六葉ウ）にあり。

「■■■■■」（方形）の不明印が、每冊首（第四冊を除く）、第三冊中にあり。

【刊行年代】

『後語』の「目録」末尾に「天曆庚午孟夏／陳忠甫宅新刊」の木記あり。

「天曆庚午」は「天曆三年」（一二三〇）にあたる。

●元天曆三刊（陳忠甫）…当館目録、三三三頁。

●元大曆三年刊本…「関東現存宋元版書目」、二五七頁。

●元天曆三年陳忠甫宅刊…「宋元版所在目録」、一五七頁。

104 箋註陶淵明集 一〇卷

四冊（晋）陶潜撰（宋）李公煥注

市橋長昭旧蔵〔請求番号別〇四二―〇〇四〕

『箋註陶淵明集』は、晋時代の詩人・陶潜の詩文集。

陶潜（三六五〜四二七）は、字は淵明（一説に名は淵明、字は元亮）、号は五柳先生、柴桑（江西省九江県）出身の人。何度か仕官するも続かず、四一歳の時に「帰去来辞」を作って官職を辞した。その後は郷里に帰り、自然と酒とを愛する自由な生活を送った。死後、靖節先生と称せられる。李公煥は、廬陵（江西省吉安県）出身の人。上記以外は未詳。

【伝来】

「竜眠」の印が、每冊首にあり（前掲100『釈氏稽古略』を参照）。

「仁正侯長昭／黄雪書屋鑒／蔵図書之印」の大型印が、每冊首にあり。

「昌平坂／学問所」（朱）の印が、每表紙、每冊尾にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首にあり。

※第四冊尾に市橋長昭の献書跋あり。

【刊行年代】

●元刊…当館目録、三三四頁。

●元覆宋刊本…「関東現存宋元版書目」、二五七頁。

●宋末元初刊 巾箱本…「宋元版所在目録」、一五八頁。

105 集千家註分類杜工部詩 二五卷 杜工部文集二卷 杜工部伝序碑銘一

卷 杜工部年譜一卷

一四冊（唐）杜甫撰（宋）徐居仁編 黄鶴補

毛利高標旧蔵〔請求番号集〇〇二—〇〇〇四〕

『集千家註分類杜工部詩』は、唐時代の詩人で「詩聖」と評された杜甫の詩集。徐居仁は杜甫の詩を紀行・述懐など七二門に分類する。「集千家註」とあるが、実際は一五六家の注釈を収録するにとどまる。

杜甫（七一二～七七〇）は、字は子美、号は少陵、鞏県（河南省鞏義市）出身の人。官吏登用試験を受験するが失敗し、推挙によって官職を得るも安祿山の乱に巻き込まれるなど、不遇な生活を送った。広徳二年（七六四）に「檢校工部員外郎」となったことから「杜工部」とも呼ばれる。旅先の潭州（湖南省長沙市）で病没（享年五九歳）した。

徐居仁は、東萊（山東省萊州市）出身の人。上記以外は未詳。

黄鶴は、字は叔似、号は牧隱、臨川（江西省撫州市）出身の人。父・黄希が果たせなかった『補注杜詩』の編纂を受け継ぎ、三〇年あまりの歳月をかけ、嘉定九年（一二一六）に完成させた。

【伝来】

「佐伯侯毛利／高標字培松／蔵書画之印」の大型印が、第一冊首にあり。

「秘閣／函書／之章」（甲）の印が、毎冊首にあり。

【刊行年代】

第一冊「伝序碑銘」末尾に「広勤書堂新刊」、「年譜」末尾に「三峯書舎」（鐘）、「広勤堂」（鑑）の木記あり。

●元刊（広勤書堂）…当館目録、三三六頁。

●元至正八年潘屏山積慶堂圭山書院刊 明広勤堂印本…「関東現存宋元版書目」、二五八頁。

●元至正八年潘屏山積慶堂圭山書院刊 覆元皇慶元年余氏勤有堂刊本 元末明初葉氏広勤堂印…「宋元版所在目録」、一六二頁。

106 集千家註批点杜工部詩集 二〇巻 杜工部文集二巻年譜一卷附一卷

一〇冊（唐）杜甫撰（宋）劉辰翁評（元）高楚芳編
市橋長昭旧蔵〔請求番号別〇五五—〇〇〇二〕

『集千家註批点杜工部詩集』は、唐時代の詩人・杜甫の詩集で、歴代の注釈を収録し、評語と詩句の横に傍線や圈点などを施したもの。魯吉・黄鶴・蔡夢弼などの注を引用している。

杜甫については、前掲105『集千家註分類杜工部詩』を参照。

劉辰翁については、前掲92『世説新語』を参照。

高楚芳（一二五五～一三〇八）は、名は崇蘭、字は楚芳、廬陵（江西省吉安県）出身の人。劉辰翁の門人（『養吾齋集』より）。

【伝来】

「定／観」（白文）の印が、毎冊首にあり。

「仁正侯長昭／黄雪書屋鑿／蔵図書之印」の大型印が、毎冊首にあり。

「昌平坂／学問所」（朱）の印が、每表紙、毎冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本／政府／函書」の印が、毎冊首にあり。

※第一〇冊尾に市橋長昭の献書跋あり。

【刊行年代】

第一冊首に「封面」あり。上部に「西園精舎」と横書きし、その下に縦書きで「黄鶴補註 須溪評点」と中央に小さく書し、その左右に「集諸家註」「杜工部詩」と大書する。

●元刊…当館目録、三三六頁。

●元刊本…「関東現存宋元版書目」、二五八頁。

●元刊…「宋元版所在目録」、一六三頁。

107 杜工部草堂詩箋 四〇巻 年譜二巻 (外集欠)

一〇冊 (宋) 魯書編 蔡夢弼注 (年) (宋) 趙子櫟編

林羅山旧蔵〔請求番号別〇四一〇〇〇二〕

『杜工部草堂詩箋』は、唐時代の詩人・杜甫の詩に注釈を施したものである。

「年譜上」には「趙子櫟撰」、「年譜下」には「魯昌撰」とある。

杜甫については、前掲105『集千家註分類杜工部詩』を参照。

魯昌は、字は季欽、号は冷齋、嘉興(浙江省嘉興市)出身の人。紹興年間(一一三一―一一六二)の進士。福建提点刑獄公事となった。

蔡夢弼は、建安(福建省建甌市)出身の人。『草堂詩話』二巻を著す。

上記以外は未詳。「草堂」とは、杜甫が蜀(四川省)に滞在していた際に住んでいた「浣花草堂」をいう。

趙子櫟(?―一一三七)は、字は夢授、天水(甘肅省天水市)出身の人。

宋王朝の太祖・趙匡胤の六世の孫。元祐六年(一一〇九)の進士で、宝文閣直学士となり、杜甫の年譜を著した。

【伝来】

「秀／崖」の印が、毎冊首にあり。

「江雲涓樹」の印が、第一冊首にあり。

「林氏伝家図書」の印が、第二冊首にあり。

「林氏／蔵書」の印が、毎冊首にあり。

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、每表紙、毎冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、毎冊首にあり。

【刊行年代】

「目録」末尾に「桂軒陳氏／大徳重刊」の木記あり。

●元大徳刊(陳氏)：当館目録、三二六頁。

●元覆宋刊本：「関東現存宋元版書目」、二五八頁。

●元大徳陳氏刊 覆宋：「宋元版所在目録」、一六二頁。

108 朱文公校 昌黎先生文集 四〇巻 遺文一卷 集伝一卷

七冊 (唐) 韓愈撰 (宋) 朱熹校異 王伯大音釈

昌平坂学問所旧蔵〔請求番号別〇五七〇〇〇三〕

南宋の大学者である朱熹がテキストの校勘を行ったもの。『朱文公校 昌黎先生文集』は、唐時代の文人である韓愈の詩文集で、韓愈(七六八―八二四)は、字は退之、南陽(河南省孟州市)出身の人。唐時代を代表する文章家で、「古文復興運動」を主導した。貞元八年(七九二)に進士となり、累進して刑部侍郎となり、昌黎伯に封ぜられた。

朱熹については、20『四書集註』(第43号所収)を参照。

王伯大は、字は幼学、号は留耕、福州(福建省福州市)出身の人。嘉定七年(一二二四)の進士で、端明殿学士・参知政事となった。

【伝来】

「宝勝院」の印が、毎冊首(第一冊を除く)、毎冊中(毎巻首にあり、

巻三六首のみ欠)、毎冊尾にあり。

京都・東福寺の塔頭「宝勝院」の蔵書印。

「光／隣」の印が、毎冊首(第一冊を除く)にあり。

芳郷光璘の蔵書印。芳郷光璘(?―一五三六)は、戦国時代の臨済宗の僧侶。一五二四年、山城東福寺の住持となる。東福寺二〇〇世。

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、每表紙、毎冊尾(第二・三冊を除く)

宗の僧侶。一五二四年、山城東福寺の住持となる。東福寺二〇〇世。

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、每表紙、毎冊尾(第二・三冊を除く)

にあり。

「文化乙亥」の印が、毎冊尾にあり。

※「文化乙亥」は、文化二年（一一一五）にあたる。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、毎冊首にあり。

【刊行年代】

「序文」末尾に「至元辛巳日新書堂重刊」の木記あり。「至元辛巳」は「至元七年」（一三三二）にあたる。

●元至元七刊（日新書堂）…当館目録、三二九頁。

●元後至元七年日新書堂刊本…「関東現存宋元版書目」、二五八頁。

●元後至元七年日新書堂刊…「宋元版所在目録」、一六六頁。

109 朱文公校 昌黎先生文集 四〇卷（卷三〜五・一五〜一七・三三〜四〇・遺文・集伝欠）

八冊（唐）韓愈撰（宋）朱熹校異 王伯大音釈

市橋長昭旧蔵〔請求番号別〇五七—〇〇〇二〕

前掲108 『朱文公校 昌黎先生文集』と同版本。

【伝来】

「仁正侯長昭／黄雪書屋監／蔵図書之印」の大型印が、毎冊首にあり。

「昌平坂／学問所」（朱）の印が、每表紙、毎冊首、毎冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「松堂／氏」の印が、毎冊尾にあり。

「■流／之印」の印が、毎冊尾（第一・三冊を除く）にあり。

当館所蔵漢籍の「宋版」及び「元版」の改題④

「■島■」の印が、毎冊尾にあり。

「■／■」（鼎）の印が、毎冊尾にあり。

※第八冊尾に市橋長昭の献書跋あり。

※第八冊裏表紙に市橋長昭「享和元年」（一一八〇）の手識あり。

【刊行年代】

「序文」末尾に「至元辛巳日新書堂重刊」の木記あり。

●元至元七刊（日新書堂）…当館目録、三二九頁。

●元後至元七年日新書堂刊本…「関東現存宋元版書目」、二五八頁。

●元後至元七年日新書堂刊…「宋元版所在目録」、一六六頁。

110 鐔津文集 二〇卷

五冊（宋）积契嵩撰

林（大学頭）家旧蔵〔請求番号別〇五六—〇〇〇二〕

『鐔津文集』は、北宋時代の高名な僧侶であった契嵩の詩文集。

积契嵩は、字は仲靈、号は潜子、鐔津（広西省藤県）出身の人。七歳で

出家し、杭州の靈隱寺に住した。北宋の仁宗より明教大師の号を賜る。

【伝来】

「顧氏／子勉」の印が、第一冊首、每冊中（第四冊を除く）にあり。

「懋齋」の印が、第一冊首、每冊中（第四冊を除く）にあり。

「林氏伝家図書」の印が、第一冊首にあり。

「林氏／蔵書」の印が、毎冊首にあり。

「昌平坂／学問所」（墨）の印が、每表紙、毎冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、毎冊首にあり。

【刊行年代】

「後序」末尾に「至大己酉」の刊記あり。「至大己酉」は「至大二年」（一三〇九）にあたる。

●元至大二刊（卷一五〜一七室町補写）：当館目録、三三三頁。

●元至大刊小字本：「関東現存宋元版書目」、二五九頁。

●元至大刊 小字本：「宋元版所在目録」、一七三頁。

111 増広 司馬温公全集 一一六卷（卷三〜九・四八〜五三・六一〜六八欠）

一七冊（宋）司馬光撰 黄革編

市橋長昭旧蔵（請求番号別〇五六―〇〇八）

『増広 司馬温公全集』は、北宋時代の政治家である司馬光の詩文集。

司馬光については、73『資治通鑑詳節』（第45号所収）を参照。
黄革については未詳。

【伝来】

「仁正侯長昭／黄雪書屋鑒／蔵図書之印」の大型印が、第一・二冊首にあり。

「昌平坂／学問所」（朱）の印が、每表紙、每冊首（第二冊を除く）、毎冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、毎冊首にあり。

※第一七冊尾に市橋長昭の献書跋あり。

【刊行年代】

●宋刊：当館目録、三三四頁。

●宋刊本：「関東現存宋元版書目」、二五九頁。

●宋刊：「宋元版所在目録」、一七四頁。

112 淮海集 四〇卷 淮海居士長短句三卷 淮海後集六卷

一〇冊（宋）秦觀撰

市橋長昭旧蔵（請求番号重〇〇二―〇〇七）

『淮海集』は、北宋時代の文人である秦觀の詩文集。

秦觀（一〇四九〜一一〇一）は、字は少游、号は淮海、邗溝居士。高郵（江蘇省高郵市）出身の人。蘇軾に屈原（戦国時代末期の著名な詩人）ほどの才能があると称賛され、黄庭堅（一〇四五〜一一〇五・張耒（一〇五二〜一一二二）・晁補之（一〇五三〜一一一〇）らとともに「蘇門の四学士」の一人に数えあげられる。

【伝来】

「仁正侯長昭／黄雪書屋鑒／蔵図書之印」の大型印が、第一冊首にあり。

「昌平坂／学問所」（朱）の印が、每表紙、每冊首（第一冊を除く）、毎冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

※第一〇冊尾に市橋長昭の献書跋あり。

※昭和三十一年、重要文化財。

【刊行年代】

第一〇冊尾に「乾道九年」（一一七三）の「後序」あり。また、印刷製本費を記した珍しい刊語がある。「高郵軍」は現在の江蘇省高郵市。

卷七(第二冊、5葉)に高宗(在位一一二七―一一六二)の諱である「構」字を敬避して「御名」とする。

●宋刊(高郵軍学)：…当館目録、三三四頁。

●宋末覆高郵軍学刊本：「関東現存宋元版書目」、二六〇頁。

●宋乾道九年高郵軍学刊：「宋元版所在目録」、一八〇頁。

113 東坡集 四〇卷(卷三―六・一一・一二・一五―一八・二二―二三・二八・二九・三六・三七欠)

一二冊(宋) 蘇軾撰

市橋長昭旧蔵(請求番号重〇〇二―〇〇〇三)

『東坡集』は、北宋時代を代表する文人である蘇軾の詩文集。本書は『東坡集』として現存する最古の版本である。

蘇軾(一〇三六―一一〇二)は、字は子瞻、号は東坡、諡は文忠、眉山(四川省眉山市)出身の人。蘇洵の子で、蘇轍の兄。政治家としては不遇であったが、詩は宋代随一と高く評価され、書画にも才能を発揮した。

【伝来】

「顔氏家訓曰借人典／籍皆須愛護先有欠／壞就為補治此亦士／大夫百行之一也／鄆江衛氏謹誌」の印が、第一・三・五・一〇・一二冊首にあり。後掲115『予章先生文集』にも同印あり。

「仁正侯長昭／黄雪書屋鑒／蔵図書之印」の大型印が、第一冊首にあり。

「昌平坂／学問所」(朱)の印が、每表紙、每冊首、每冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首、每冊尾にあり。

「内閣／文庫」の印が、每冊首、每冊尾にあり。
「雲／■」(鼎)の印が、每冊首、每冊尾にあり。

※每冊首上部に「西禅寺常住」の墨書あり。

※第一冊尾に市橋長昭「文化元年」(一八〇四)の手識あり。京都西

禅寺から妙心寺大竜院僧懶庵をへて市橋長昭に伝わったとある。

※第一二冊尾に市橋長昭の献書跋あり。

※昭和三十一年、重要文化財。

【刊行年代】

第一冊首に「乾道九年」(一一七三)の「序文」あり。

孝宗(在位一一六二―一一八九)の諱である「慎」字までを欠筆する。

●宋刊：当館目録、三三五頁。

●宋槧本：『経籍訪古志』、一〇八頁。

●宋乾道刊本：「関東現存宋元版書目」、二六〇頁。

●宋乾道刊：「宋元版所在目録」、一七六頁。

114 后山詩注 一二卷

六冊(宋) 任淵〔注〕

市橋長昭旧蔵(請求番号集一三四―〇〇〇三)

『后山詩注』は、北宋時代の詩人である陳師道の詩集に、南宋時代の任淵が注釈を施したものである。

陳師道(一〇五三―一一〇二)は、字は履常、号は后山(後山)、彭城

(江蘇省銅山県)出身の人。蘇軾などの推挙によって、徐州教授に任命さ

れ、後に秘書省正字となった。

任淵は、字は子淵、新津(四川省新津県)出身の人。紹興元年(一一三二)、試験に合格して潼川(四川省三台县)の役人となった。また黄庭堅の詩に注釈を加えた『山谷内集詩注』がある。

【伝来】

「定惠院」の印が、第三・五冊中にあり。

京都・建仁寺の塔頭「定惠院」の蔵書印。

「仁正侯長昭／黄雪書屋鑿／蔵図書之印」の大型印が、毎冊首にあり。

「昌平坂／学問所」(朱)の印が、每表紙、毎冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、毎冊首にあり。

※第六冊尾に市橋長昭の献書跋あり。

※第六冊裏表紙に市橋長昭「享和三年」(一八〇三)の手識あり。

【刊行年代】

●元刊：当館目録、三三六頁。

●元刊本：「関東現存宋元版書目」、二六〇頁。

●元刊：「宋元版所在目録」、一八〇頁。

115 予章先生文集 三〇卷(卷一～四・一〇～一五・一八・一九・二二・

二三・二七～三〇欠) 外集一七卷(卷一～四・一〇

～一三・一六・一七欠)

七冊 (宋) 黄庭堅撰

市橋長昭旧蔵〔請求番号重〇〇三―〇〇〇二〕

黄庭堅(一〇四五～一一〇五)は、字は魯直、号は山谷、涪翁。洪州分寧(江西省修水县)出身の人。蘇軾にその才能を見いだされ、後に「蘇門の四学士」(前掲112『淮海集』を参照)の一人に数えあげられる。

【伝来】

「顔氏家訓曰借人典／籍皆須愛護先有欠／壞就為補治此亦士／大夫百行

之一也／鄞江衛氏謹誌」の印が、毎冊首(第二・五冊を除く)にあり。

前掲113『東坡集』にも同印あり。

「仁正侯長昭／黄雪書屋鑿／蔵図書之印」の大型印が、第一冊首にあり。

「昌平坂／学問所」(朱)の印が、每表紙、毎冊首(第一冊を除く)、毎冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、毎冊首にあり。

「雲／■」(鼎)の印が、毎冊首、毎冊尾にあり。

※毎冊首上部などに「西禅寺」・「西禅寺常住」の墨書があり。

※第四冊尾に市橋長昭の献書跋あり。

※昭和三年、重要文化財。

【刊行年代】

孝宗(在位一一六二～一一八九)の諱である「慎」字までを欠筆する。

●宋刊：当館目録、三三六頁。

●宋槧本：『経籍訪古志』、一〇九頁。

●宋刊：「宋元版所在目録」、一七九頁。

『予章先生文集』は、北宋時代の文人である黄庭堅の詩文集。

一五冊 (宋) 蘇轍撰

昌平坂学問所旧蔵〔請求番号重〇〇三〇〇四〕

『類編増広 穎浜先生大全文集』は、北宋時代の文人である蘇轍の詩文集。卷一一を「十一至二十一」、卷二六「二十六至三十六」、卷四六を「四十六至五十」、卷六七を「六十七至八十」と題して合巻とする。

蘇轍は(一〇三九〜一一二二)は、字は子由、号は穎濱、樂城、諡は文定、眉山(四川省眉山市)出身の人。一九才の時、兄とともに進士となつて官職に就き、大中大夫となつた。文章に才能を發揮し、兄の蘇軾とともに唐宋八大家の一人に数えあげられる。

【伝来】

「間■」の不明印が、第一・七・一二冊首、每冊中(第一・一一・一二冊を除く)にあり。

「棲／蘆」(丸形)の印が、第冊首にあり。

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、每表紙(第一五冊を除く)、每冊尾にあり。

「文化戊辰」の印が、每冊尾にあり。

※「文化戊辰」は、文化五年(一八〇八)にあたる。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首、每冊尾にあり。

「内閣／文庫」の印が、每冊首、每冊尾にあり。

「■／■」の不明印が、每冊尾(第一三・一五冊を除く)にあり。

※昭和三二年、重要文化財。

【刊行年代】

当館所蔵漢籍の「宋版」及び「元版」の改題④

孝宗(在位一一六二〜一一八九)の諱である「慎」字までを欠筆する。

●宋刊：当館目録、三三七頁。

●宋刊本：「関東現存宋元版書目」、二六〇頁。

●宋刊：「宋元版所在目録」、一七九頁。

117 東萊先生詩集 二〇卷

六冊 (宋) 呂本中撰 沈公雅編

昌平坂学問所旧蔵〔請求番号別〇四一〇〇〇四〕

『東萊先生詩集』は、宋時代の詩人である呂本中の詩集。

呂本中(原名は呂大中、一〇八四〜一一四五)は、字は居仁、寿州(安徽省寿县)出身の人。北宋の末年に祠部員外郎となり、紹興六年(一一三六)に進士を賜る。その後、中書舍人・兼直学士院となつた。博學で詩文をよくくし、東萊先生と称された。

沈公雅は、名は度、字は公雅、徳清(浙江省徳清県)出身の人。二程(程頤と程顥)・楊時に学んだ陳淵に師事し、余干の県令から兵部尚書に累進した。呂本中とは通家(代々親しく付き合っている家)であつた。

【伝来】

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、每表紙、每冊尾にあり。

「文化己巳」の印が、每冊尾(第四冊を除く)にあり。

※「文化己巳」は、文化六年(一八〇九)にあたる。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首、每冊尾にあり。

「内閣／文庫」の印が、每冊首、每冊尾にあり。

「東／山」の印が、第一冊首、每冊中（第三・四・五冊のみ）、第一冊尾にあり。

「方／岩」の印が、第一冊首、每冊中（第三・四・五冊のみ）、第一冊尾にあり。

「徳／■」の不明印が、第一冊首、每冊中（第三・四・五冊のみ）、第一冊尾にあり。

「■／■」の不明印が、第二冊尾にあり。

「■／■」の不明印が、第二冊尾にあり。

【刊行年代】

第一冊首に「乾道二年」（一一六六）の「序文」あり。

●宋乾道刊：当館目録、三三七頁。

●宋刊本：「閩東現存宋元版書目」、二六〇頁。

●宋乾道刊 欠外集：「宋元版所在目録」、一八二頁。

118 梅亭先生 四六標準 四〇卷

一九冊（宋）李劉撰

〔請求番号重〇〇三―〇〇〇五〕

『梅亭先生 四六標準』は、南宋時代の文人で「四六文」に精通した李劉の文集。門人の羅逢吉が編纂した。

李劉は、字は公甫、号は梅亭、崇仁（江西省崇仁県）出身の人。嘉定七年（一一二四）の進士で、中書舎人・宝章閣待制となった。「四六」とは「四六文」（四字と六字の対句を用いて作る華麗な文章）のこと、「標準」とは「弟子が師の文章を尊崇する意味を持つ」という。

【伝来】

「新宮城書蔵」の印が、每冊首（第九冊を除く）にあり。

紀州新宮城主・水野忠史（一一八四―一八六五）の蔵書印。

「図書／局／文庫」（大）の印が、每冊首、第四・五冊中、每冊尾（第四冊を除く）にあり。

内務省図書局の蔵書印。明治一五年六月から明治一八年六月まで用いられた。大・小の二印がある。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首（第一八冊を除く）、第四・一八冊中、每冊尾（第四冊を除く）にあり。

「内閣／文庫」の印が、每冊首（第一八冊を除く）、第四・一八冊中、每冊尾（第四冊を除く）にあり。

「■／庵」の不明印が、第二・一九冊首、第三・五・七・九・一一・一三・一四・一五・一七冊中にあり。

※昭和三二年、重要文化財。

【刊行年代】

●宋刊：当館目録、三四〇頁。

●宋刊本：「閩東現存宋元版書目」、二六一頁。

●宋刊：「宋元版所在目録」、一八七頁。

119 平齋文集 三三卷 目二卷

一二冊（宋）洪咨夔撰

昌坂学問所旧蔵〔請求番号重〇〇三―〇〇〇一〕

『平齋文集』は、南宋時代の文人である洪咨夔の詩文集。

洪咨夔（一一七六—一二三六）は、字は舜俞、号は平齋、諡は忠文、於潜（浙江省臨安市）出身の人。嘉泰二年（一二〇二）の進士で、刑部尚書・翰林学士などを歴任した。

【伝来】

「狩谷／望之」の印が、第一冊首にあり。

「椴齋」の印が、每一冊首にあり。

「湯島狩／谷氏求古樓／図書記」の印が、第一二冊尾にあり。

上記の三印は、狩谷椴齋の蔵書印。狩谷椴齋（一七七五—一八三五）

は、江戸時代後期の書誌学者・蔵書家・書籍商（青裳堂）。名は望之、字は卿雲、号は椴齋。

「黙／翁」の印が、第一・二冊首、每冊中（第一・二・九・一二冊を除く）にあり。

「昌平坂／学問所」（墨）の印が、第一・五・七・九・一一・一二冊表紙、第六冊首、第三・八・一〇冊中、第四・一二冊尾にあり。

「安政乙卯」の印が、第三・八・一〇冊中、第四・六・一二冊尾にあり。

※「安政乙卯」は、安政二年（一八五五）にあたる。

「浅草文庫」の印が、第一・五・七冊首、第三・八・一〇冊中にあり。

「日本／政府／図書」の印が、第一・五・七・八冊首、第三・五・八・一〇冊中にあり。

「内閣／文庫」の印が、第一・五・七・八冊首、第三・五・八・九・一〇冊中、第四・六・一二冊尾にあり。

※昭和三二年、重要文化財。

【刊行年代】

宋諱の欠筆は一定せず。

●宋刊：当館目録、三四一頁。

●宋刊本：「閩東現存宋元版書目」、二六一頁。
●宋刊：「宋元版所在目録」、一八六頁。

120 新編翰林珠玉 六卷

四冊（元）虞集撰

毛利高標旧蔵（請求番号別〇五八—〇〇〇三）

『新編翰林珠玉』は、元時代の文人である虞集の詩集。虞集の詩文集には『道園学古類』五〇巻があるが、本書はその「外集」にあたり、古詩・律詩・絶句を収録する。

虞集については、前掲90『玄玄棊経集』を参照。

【伝来】

「佐伯侯毛利／高標字培松／蔵書画之印」の大型印が、第一冊首にあり。

「昌平坂／学問所」（墨）の印が、每冊首、每冊尾にあり。年代印なし。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首にあり。

「鐘奇齋／図書記」の印が、第一・三冊首にあり。

「松菊／主人」（白文）の印が、第一・三冊首にあり。

「吟風／青月」の印が、第一・三冊首、第二・四冊尾にあり。

「■■■軒」の不明印が、第四冊尾にあり。

【刊行年代】

卷一首に「儒学学正孫存吾如山家塾刊」の刊記あり。

●元刊（補写・補配）：当館目録、三四三頁。

●元刊 覆元後至元年間盧陵孫氏益友書堂刊：「宋元版所在目録」、

一九一頁。

121 潜溪集 一〇巻 附二巻

四冊 (明) 宋濂撰

昌平坂学問所旧蔵〔請求番号別〇五六―〇〇〇一〕

『潜溪集』は、明時代の政治家・学者である宋濂の文集。

宋濂(一三三〇―一三八二)は、字は景濂、号は潜溪、諡は文憲、浦江

(浙江省浦江県)出身の人。明時代の初めに江南儒学提挙に任命され、翰林学士・知制誥となり、勅命を受けて『洪武正韻』・『元史』を編纂した。

【伝来】

「吉氏／蔵書」(白文)の印が、第一冊首にあり。

吉田意庵の蔵書印。詳しくは18『論語通』(第43号所収)を参照。

「増島氏／図書記」の印が、毎冊首にあり。

増島蘭園の蔵書印。詳しくは43『晋書』(第44号所収)を参照。

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、每表紙、毎冊尾にあり。

「文政庚辰」の印が、第冊尾にあり。

※「文政庚辰」は、文政三年(一八二〇)にあたる。

【刊行年代】

「附録」末尾に「至正一六年」(一三五六)の刊記あり。

●元至正刊：当館目録、三四四頁。

●元至正刊本：「関東現存宋元版書目」、二六二頁。

●元至正刊：「宋元版所在目録」、一九三頁。

122 国朝文類 七〇巻 目三巻

一二冊 (元) 蘇天爵編

高野山釈迦文院旧蔵〔請求番号別〇五四―〇〇〇八〕

『国朝文類』は、元時代の初めから延祐年間(一三一四―一三二〇)

までに活躍した文人たちの詩や文章を、賦・五言古詩・記・題跋など四三の部門に分類・整理したもの。

蘇天爵については、前掲82『国朝名臣事略』を参照。

【伝来】

高野山釈迦文院旧蔵書。詳しくは35『書学正韻』(第44号所収)を参照。

【刊行年代】

第一冊首に「至正二年」(一三四二)の「公文」、「目錄」末尾に「儒学葉森■」の刊記あり。また「成化九年／吏部重刊」の補刊記あり。「成化九年」は一四七三年にあたる。

●元至正二刊(西湖書院・明成化九修)：当館目録、三九五頁。

123 皇元大科三場文選 全一五巻

四冊 (元) 周夔編

昌平坂学問所旧蔵〔請求番号別〇五八―〇〇〇四〕

『皇元大科三場文選』は、官吏登用試験の模範解答を収録した受験参考

書。「大科」は宋の時代以降に天子が自ら実施した試験の名称、「三場」は

二泊三日で行われる三日間の試験をいう。

周夔は安城(河南省原陽県)出身の人。上記以外は未詳。

【伝来】

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、每表紙、每冊中(第一・四冊を除く)、第四冊尾にあり。年代印なし。

「書籍／館印」の印が、每冊首にあり。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首にあり。

「■■■■」の不明印が、第一冊首、第一・三冊中にあり。

【刊行年代】

第四冊尾に「至正甲申」(至正四年、一三四四)の「後序」あり。

●元〔至正〕刊：当館目録、三九六頁。

●元至正刊本：「関東現存宋元版書目」、二六四頁。

●元至正刊：「宋元版所在目録」、二〇四頁。

124 楽府詩集 一〇〇巻 目二巻

二〇冊 (宋) 郭茂倩編

紅葉山文庫旧蔵〔請求番号集二三四—〇〇〇一〕

『楽府詩集』は、太古から五代時代までの「楽府」(音楽に合わせて歌われる詩)を、郊廟歌辞・燕射歌辞・鼓吹曲辞などの一二類に分類し、年代順に配列したもの。

郭茂倩は、字は德榮、須城(山東省東平県)出身の人。北宋時代の政治家である郭勸の孫。上記以外は未詳。

【伝来】

紅葉山旧蔵本であるが、印記等はなし。

当館所蔵漢籍の「宋版」及び「元版」の改題④

【刊行年代】

第一冊首に「至正元年」(一三四一)の「序文」あり。また「嘉靖三〇年」(一五五二)の補刊記あり。

●元刊(明嘉靖三〇修)：当館目録、四〇九頁。

●元至正年刊 明嘉靖三〇年修：「宋元版所在目録」、一九七頁。

125 新刊名賢叢話詩林広記 前集一〇巻(巻五—一〇欠) 後集一〇巻

四冊 (宋) 蔡正孫撰

林(大学頭)家旧蔵〔請求番号別〇五八—〇〇〇一〕

『新刊名賢叢話詩林広記』は、有名詩人の詩とその詩に対する「詩話」(詩の評論や作詩法、詩人の逸話などを述べたもの)などを合せて収録したもの。「前集」には陶潜から元稹といった唐時代までの詩人、「後集」には欧陽脩から劉敞といった北宋時代の詩人の詩を収録する。

蔡正孫は、字は粹然、号は蒙斎野逸。南宋時代の政治家・謝枋得の門人。

【伝来】

「林氏伝家図書」の印が、第一冊首にあり。

「林氏／蔵書」の印が、每冊首にあり。

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、每表紙、每冊尾にあり。

「書籍／館印」の印が、每冊首にあり。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首にあり。

「高■■■印」(白文)の不明印が、每冊首(第一冊を除く)、每冊尾(第一冊を除く)にあり。

「■／■」（鼎・緑色）の不明印が、毎冊首（第一冊を除く）にあり。

※第四冊尾に林羅山「道春氏」の朱書あり。

【刊行年代】

●宋刊（前集室町補写）…当館目録、四二九頁。

●宋刊本…「関東現存宋元版書目」、二六三頁。

●元刊 前集室町補写…「宋元版所在目録」、二〇七頁。

126 全相平話

五冊

紅葉山文庫旧蔵〔請求番号重〇〇二—〇〇〇二〕

『全相平話』は、平易な言葉で記した挿絵入りの軍談小説。「全相」は「すべてのページに挿絵があること」、「平話」は「史実を平易な言葉で面白く講談したもの」の意味で、元の至治年間（一二三二—一二三三）に建安（福建省建甌市）の虞氏が刊行した。

・新刊全相平話武王伐紂書三卷

・新刊全相平話欒毅凶齊七国春秋後集三卷

・新刊全相秦併六国平話三卷

・新刊全相平話前漢書統集三卷

・至治新刊全相平話三国志三卷

上記の五篇は、現存唯一の版本で、中国文学史ならびに書誌学の貴重な資料として世界的に知られている。

【伝来】

「雪／庭」の印が、毎冊尾にあり。

「■／深」の印が、毎冊尾にあり。

「日本／政府／図書」の印が、毎冊首、毎冊尾にあり。

「内閣／文庫」の印が、毎冊首、毎冊尾にあり。

※昭和三〇年、重要文化財。

【刊行年代】

五篇すべてに「封面」があるが、「三国志」の「封面」にのみ「建安虞氏新刊」「至治新刊」と記す。

●元至治刊（建安虞氏）…当館目録、四三六頁。

●元至治中建安虞氏刊本…「関東現存宋元版書目」、二五四頁。

●元至治中建安虞氏刊…「宋元版所在目録」、二二〇頁。

※【補足】「元版」か「明版」か評価の別れるものなどを以下に収録した。

127 三蘇先生文集 七〇卷

七冊（宋）蘇洵等撰

市橋長昭旧蔵〔請求番号別〇三五—〇〇〇三〕

『三蘇先生文集』は、北宋時代の文人である蘇洵・蘇軾・蘇轍の詩文集。当時、蘇洵とその息子である蘇軾・蘇轍の三人を「三蘇先生」と尊称した。七〇巻の内訳は、蘇洵一一巻、蘇軾三三巻、蘇轍二七巻である。

蘇洵（一〇〇九—一〇六六）は、字は明允、号は老泉、眉山（四川省眉山市）出身の人。二七歳の時、一大決心をして学問に専心し、儒学の經典はもとより諸学全般に精通した。その後、息子とともに都に赴いた蘇洵は、

宰相の推挙によって秘書省校郎となった。

【伝来】

「慈照院」の印が、毎冊首にあり。

「仁正侯長昭／黄雪書屋鑒／藏圖書之印」の大型印が、毎冊首にあり。

「昌平坂／学問所」(朱)の印が、每表紙、毎冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、毎冊首にあり。

「■／■」(白文)の不明印が、毎冊尾にあり。

※毎冊首上部に「妙覚寺常住日典」の朱書があるも削除されている。

※第七冊尾に市橋長昭の献書跋あり。

【刊行年代】

第一冊首に「封面」あり。上段に「同文書院」と横書きし、その下に縦書きで「三蘇文集」と中央に大書し、その左右に「鐘山川之靈秀」「煥星斗之文章」と書する。

●元末明初刊(同文書院)：当館目録、三九五頁。

128 国朝文類 七〇卷(卷三・六～一三・五四・五五補写)

一〇冊(元)蘇天爵編

林羅山旧蔵〔請求番号三六二—〇〇四八〕

『国朝文類』については、前掲122『国朝文類』を参照。

蘇天爵については、前掲82『国朝名臣事略』を参照。

【伝来】

「江雲涓樹」の印が、第一冊首にあり。

「林氏／藏書」の印が、毎冊首にあり。

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、每表紙、毎冊尾にあり。

「書籍／館印」の印が、毎冊首にあり。

「浅草文庫」の印が、毎冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、毎冊首にあり。

※第三・六冊首上部に「清安常住休安置施」の墨書あり。

【刊行年代】

第一〇冊尾に「元統三年」(二三三五)の刊記あり。

●元末明初刊：当館目録、三九五頁。

129 臨川王先生荊公文集 一〇〇卷(卷六四～一〇〇欠)

七冊(宋)王安石撰

昌平坂学問所旧蔵〔請求番号別〇五六—〇〇〇六〕

『臨川王先生荊公文集』は、北宋時代の文人である王安石の詩文集。

王安石(一〇一九～一〇八六)は、字は介甫、号は半山、諡は文公、臨

川(江西省撫州市)出身の人。慶暦二年(一〇四二)の進士で、吏部尚書

となる。「新法」を唱えて政治改革を行い、司馬光ら保守派と対立した。

【伝来】

「盛方院」の印が、毎冊首にあり。

盛方院の蔵書印。幕府の医官を世襲した吉田氏の蔵書印。初代の浄快が後花園天皇の病を平癒させ、その功績により「盛方院」の号を賜った。吉田氏はこの院号を代々用いた。

「東漢／劉氏」(白文)の印が、第一冊首(巻一首)にあり。

多紀氏の蔵書印。幕府の医官を世襲した多紀氏の蔵書印。多紀氏の遠祖は、後漢（東漢ともいう）王朝の靈帝から出たといわれ、多紀氏の歴代はしばしば劉姓を用いた。

「昌平坂／学問所」（墨）の印が、每表紙、每冊尾（第五冊を除く）にあり。

「文化甲戌」の印が、每冊尾（第五冊を除く）にあり。

※「文化甲戌」は、文化二年（二八二四）にあたる。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首にあり。

※「序文」末尾に「天啓三年」（一六二三）徐焞の手跋あり。徐焞は、字は惟起、興公、号は天竺山人、閩県（福建省閩侯県）出身の人。

万曆中、閩地方の詩壇の領袖となるも、官職に就くことはなかった。

※第七冊尾に「寛政五年」（一七九三）亀田鵬齋の手跋あり。亀田鵬齋（一七五二〜一八二六）は、江戸時代後期の儒学者。名は長興、字は釋竜、号は鵬齋、善身堂という。

【刊行年代】

●明初刊：当館目録、三三四頁。

●元刊本：「関東現存宋元版書目」、二五九頁。

●元刊 欠巻六三―一〇〇：「宋元版所在目録」、一七六頁。

130 新刊 黄帝明堂灸経 三卷

一冊 題（宋）西方子撰（元）竇桂芳校
紅葉山文庫旧蔵〔請求番号子〇三四―〇〇〇二〕

『新刊 黄帝明堂灸経』は、「灸（もぐさを肌の上に置いて火を付け、その熱で病気を治す医療）」について解説した医学書。人体にある「穴（人体の急所）」を人体図を用いて図示している点の特徴である。「黄帝」は伝説上の帝王の名前で、曆数・音楽・文字・医薬などを創始したという。

「明堂」は、鍼灸師が人体の「穴」について記録したものをいう。

西方子については未詳。

竇桂芳については未詳。

【伝来】

印記等無し。

【刊行年代】

●明初刊：当館目録、一九一頁。

●元刊本：「関東現存宋元版書目」、二四九頁。

●元刊：「宋元版所在目録」、一一七頁。

131 新刊増入諸儒議論 杜氏通典詳節 四二巻

八冊（唐）李翰

高野山釈迦文院旧蔵〔請求番号別〇五二―〇〇〇九〕

『新刊増入諸儒議論 杜氏通典詳節』は、唐時代の杜佑が編纂した

『通典』二〇〇巻から主要な出来事を抜粋し、蘇軾・司馬光といった北宋

時代の学説を附したダイジェスト版。「詳節」と銘打ちながら、その分量は『通典』に比して非常に少ない。

『通典』は、古代から唐時代までの制度を、食貨・選挙・職官などの八門に分類・整理して収録したもの。李翰の「通典序」を「新刊増入諸儒議

論杜氏通典詳節序」と改題して収録する。

杜佑（七三五～八一二）は、字は君卿、諡は安簡、京兆万年（陝西省長安市）出身の人。濟南參軍・檢校司空同平章事を歴任し、弘文館大学士を加えられ、太保を以て政界から引退した。

【伝来】

高野山釈迦文院旧蔵書。印記等無し。

【刊行年代】

「綱目」末尾に「至元丙戌／重新繡梓」の刊記あり。「至元丙戌」は「至元二三年」（一二八六）にあたる。

●明刊：当館目録、一四一頁。

●元至元二十三年刊本：「関東現存宋元版書目」、二四五頁。

●明前期刊：「宋元版所在目録」、九六頁。

132 揭曼碩詩集 三卷

一冊（元）揭傒斯撰 溥化校

毛利高標旧蔵〔請求番号集〇一五〇〇〇五〕

『揭曼碩詩集』は、元代の学者であり詩人であった揭傒斯の詩集。『文安公全集』一四卷は有名であるが、本書の伝本は非常に稀である。

揭傒斯（一二七四～一三四四）は、字は曼碩、諡は文安。龍興富州（江西省豊城市）出身の人。国史院編修官・翰林院侍講を歴任した。「元代四傑」の一人。

溥化は、字は元溥（元普）、泰定四年（一二三二）の進士。揭傒斯の弟子であった錫喇布哈（變理溥化）のこと。

【伝来】

「佐伯侯毛利／高標字培松／蔵書画之印」の大型印が、冊首にあり。

「■」（方形、朱）の不明印が、冊首にあり。

「■」（方形、朱）の不明印が、冊首にあり。

【刊行年代】

●南北朝刊：当館目録、三四三頁。

●元刊本：「関東現存宋元版書目」、二六二頁。

●元刊：「宋元版所在目録」、一九一頁。

133 文粹 一〇〇卷

八冊（宋）姚鉉編

高野山釈迦文院旧蔵〔請求番号三六二一〇〇四二〕

『文粹』は、唐時代の詩文を、古賦・頌・賛・表奏書疏・文・論などの一六類に分類・整理して収録したもの。唐時代に確立した近体詩や四六駢儷体の文章を収録しないなど、古文復興の流れに沿った編集となっている。

姚鉉（九六八～一〇二〇）は、字は宝之（『宋史』による）、廬州合肥（安徽省合肥市）出身の人。太平興国八年（九八三）の進士で、累進して兩浙転運使となる。

【伝来】

高野山釈迦文院旧蔵書。印記等無し。

【刊行年代】

●明初刊：当館目録、三八七頁。

●元末明初刊：「宋元版所在目録」、二〇〇頁。

134 唐詩鼓吹 一〇卷

五冊（金）元好問編（元）郝天挺注

市橋長昭旧蔵〔請求番号別〇五八—〇〇〇七〕

『唐詩鼓吹』は、唐時代の柳宗元（七七三—八一九）から北宋時代初めの徐鉉（九一六—九九二）にいたるまで、九六人の詩人が詠んだ七言律詩・五九六首を収録した詩集。

元好問（一一九〇—一二五七）は、字は裕之、号は遺山、太原秀容（山西省忻州市）出身の人。興定年間（一二一七—一二二二）に進士となり、金王朝に仕え、国史院編集・行尚書省左司員外郎などを歴任した。金王朝の滅亡（一二三四）後は、政界から引退して著作に専心した。

郝天挺は、字は継先、諡は文定、安肅（河北省徐水県）出身の人。元好問の門下に学んだといわれ、中書左丞・河南行省平章政事などを歴任した。

【伝来】

「仁正侯長昭／黄雪書屋鑿／蔵図書之印」の大型印が、第一冊首にあり。

「昌平坂／学問所」（朱）の印が、每表紙、每冊首（第一冊を除く）、每冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

※第五冊尾に市橋長昭の献書跋あり。

【刊行年代】

「目録」末尾に「冲和堂刊」の木記あり。また「至大元年」（一三〇八）

の「序文」あり。

●明初刊（冲和堂）…当館目録、三八八頁。

●元末明初冲和堂刊本…「関東現存宋元版書目」、二六三頁。

●元末明初冲和堂刊…「宋元版所在目録」、二〇二頁。

135 北磻詩集 九卷 北磻文集一〇卷 北磻和尚外集一卷 北磻和尚語録一卷

九冊（宋）积居簡撰（外・語）积大観編

昌平坂学問所旧蔵〔請求番号別〇四三—〇〇〇八〕

『北磻詩集』・『北磻文集』は、南宋時代の僧侶である居簡の詩文集。「外集」は「偈頌」を、「語録」は台州般若禅院などでの発言を収録する。积居簡は、字は敬叟、号は北磻。潼川（四川省三台県）の王氏の子。嘉

熙年間（一二三七—一二四〇）、浄慈光孝寺に住した。

积大観は、积居簡の弟子。卷首に「嗣法小師 大観」とある。

【伝来】

「雑／華／院」の印が、每冊首にあり。

京都・妙心寺の塔頭「雑華院」の蔵書印か。

「別／源」の印が、每冊首にあり。

「心／田」（白文）の印が、第八冊首、第八・九冊尾にあり。

「昌平坂／学問所」（墨）の印が、每表紙、每冊尾にあり。

「文化乙亥」の印が、每冊尾（第一冊を除く）にあり。

※「文化乙亥」は、文化二年（一八一五）にあたる。

「浅草文庫」の印が、每冊首にあり。

「日本／政府／図書」の印が、每冊首にあり。

※『詩集』末尾に「正徳元年」（一七一一）の手跋（伯朕泰）あり。

【刊行年代】

『文集』末尾に「崔尚書宅刊梓」の木記あり。

●応安七年（覆宋）（語）元刊…当館目録、三四〇頁。

一冊 題(宋) 黄堅編

毛利高標旧蔵〔請求番号 三六二一〇〇五五〕

『魁本大字諸儒箋解 古文真宝 後集』は、戦国時代末の屈原くわげんから宋時代までの優れた文章を収録したもので、辞・賦・説・解・序など一七類に分類・整理する。本書には欠けているが、「前集」には漢時代から宋時代までの著名な詩を収録する。

黄堅こうけんは、永陽えいよう(湖南省江永県) 出身の人。上記以外は未詳。

【伝来】

「佐伯侯毛利／高標字培松／蔵書画之印」の大型印が、冊首にあり。

「昌平坂／学問所」(墨)の印が、表紙、冊尾にあり。

「浅草文庫」の印が、冊首にあり。

【刊行年代】

●南北朝刊(覆刻・卷六ノ一〇元刊)：当館目録、四〇九頁。

●元刊本：「関東現存宋元版書目」、二六三頁。

(統括専門官室 職員)